



今尾の子



令和4年度 えのき通信

海津市立今尾小学校だより

令和4年7月1日

いろいろな習慣を見直す機会に

一学期最後の月の七月。そして、一ヶ月以上ある夏休みがすぐそこに来ていきます。この時期だからこそ、今一度子供の学校、家庭、地域でのいろいろな『習慣』を見つめなおしてみましよう。

『習慣』とは、長い間繰り返し行ううちに、そうするのがきまりのようになったこと。言われなくても、考えなくてもできることです。例えば「早寝早起きの習慣」です。また、学習によって後天的に獲得され、反復によって固定化された個人の行動様式とも言われます。

たくさんの良い習慣が身に付いている今尾小の子供たちです。身に付けた背景には、何か要因があるはず。その要因を過去から振り返ってみると、十分に身に付いていない習慣にも生かされます。身に付いていない前と変わらずに、身に付いている背景には、子供の何気ない働き、動き、頑張りがあはるはず。できるよになったり、できていることが継続していたりした時がチャンスです。教えて、やらせて、できた時こそ認めるようにしましょう。できていないままにしておく、それが当たり前になり、やり直し、取り戻すことができなくなります。また、慣れからくる

ダレがあるのも事実かもしれません。できている事実を必ずほめ、できていなければ、やれていなければやり直させる繰り返しが大切です。さらに、どのように声をかけるかが大切です。「しなきゃダメ」という否定的な言い方を「するといいよ」という肯定的な言い方に変えることが大事です。こういう言い方なら、自分がとがめられていないので反発を感じません。おまけに、やるべきことを前向きにイメージすることができるので、やってみようという気持ちになりやすいのです。

学校生活だけでなく、家庭生活・地域での生活で、今こそ必要な教育、構え、対応です。

また、「事実をみつめ、事実をつくり、事実を残し、事実を高める。」ことを大切にしましょう。よい結果を残すのではなく、取組みの過程を大切にしたいのです。つらさやよさ、苦しさ、楽しさなどは、実践しなければ分かりません。「つもり」でいることが怖いのです。「やったつもり」、「わかったつもり」ではいけないことを子供に分からせてやるのが大切です。

さらに、習慣を見直す時に、様々な集団の中にいる場合と一人である場合ではどうであるかです。学校で集団として活動して

いる、地域で集団として活動している場面や、家族で生活している、一人である場面など、様々な場合が考えられます。

七月は日が長くなり、さらに、夏休みになると、家庭や地域での生活が多くなります。家族や地域の方々を毎日見守って、かわっていただけだからこそ、わずかな変化に気付いていただけたらと思います。その時こそ一声かけてください。よろしくお願ひします。

感染予防・拡大対策の徹底を

コロナ感染がまだまだ終息しない状況であり、熱中症も心配されますが、三年ぶりに水泳の学習を行っています。できる限りの感染対策をしている中ですが、プールには、笑顔があふれています。この笑顔を絶やさなためにも、今後もこれまで行ってきた**基本的な感染予防対策**(正しいマスクの着用・正しい手洗い・3密の回避等)をより一層の徹底を家族ぐるみで願ひします。

また、**感染拡大**させないために、本人はもちろんですが、同居のご家族で体調等が普段と少しでも異なる場合には、登校や出勤・外出を自粛し、自宅で休養してください。これも、外からウイルスを学校内に持ち込まないようにするための大切な一つの対策です。何卒今の状況をご理解いただき、ご協力を今後もお願ひします。

